

留学報告書 ～悔いのない留学～

ジョージブラウン大学
外国語学部生（長期）

私は、去年の夏から今年の春にかけて長期公費交換留学生として、カナダのトロントに位置するジョージブラウン大学というところに通っていました。8か月の間、ホストファミリーと一緒に過ごしながら大学に通ってました。最初に言いますが、私がこの留学に自分自身で点数をつけるとしたら、100点という点数をつけたいと思います。その理由は主に二つあります。勉学面と生活面で自分自身でも悔いのないほど努力をしてきましたし、その分とても素敵な経験と結果がついてきたからです。

まず、勉学面についてです。私は渡航してから半年間、ESLのクラスで授業を受けていました。私の通っていた大学のESLのクラスは、レベル1から8あり、2か月で一つのタームになっています。必要最低限以上の成績を取得すれば、次のレベルに昇格できる、というシステムになっています。私は渡航する前から、ジョージブラウン大学に通っていた先輩から、このシステムについて聞いていました。そして、ジョージブラウン大学のESL生徒は、ネイティブの学生と一般の授業を取ることができないということも聞いていました。渡航する前の私にとってそのことがとても悔しく、なんとかしてESLの授業だけでなく、一般授業に参加することを目標にし、カナダに渡航しました。運よく、私はESLレベル7から受けることになり、そしてレベル8を受け、12月にESLを卒業することができました。レベル7や8の授業では文法などの基礎は授業内でやらず、APAを用いたエッセイや論文の書き方について細かく学びました。もともとライティングが得意だったのですが、今まで物事に対する自分の考えを自分自身で掘り下げる、ということをしてこなかったのが、エッセイや論文を書くときに、自分の意見の質の低さに苦しめられました。とても課題が多く、平日休日関係なく図書館に通う日々でした。自分の論文内容や参考文献に悩まされ、何度も練習したにも関わらず納得のプレゼンテーションができず、クラスメートとの知識量の差にショックを受け、ストレスが溜まり、何度も涙を流し、人生で一番辛いと言っても過言ではないほど辛い毎日でした。しかし、通学時間に英語で書かれた新聞を読み、チュータリング制度を何度も利用し、家で文法や単語の勉強をし、他国の生徒との差を補う努力をしました。この半年間で私は30以上のエッセイや論文を書き、10以上のプレゼンテーションを行いました。明らかに、自分の5つの英語のスキルが向上しました。1月からは一般学生としてGeneral Art and Scienceという学部在籍し留学生としてではなく、一般学生として半年間勉強していました。交換留学生というフィルターはなく、現地学生と同じように課題もこなし、授業に参加しなければいけません。ネイティブ学生との差を少なくするために必ず授業前に、板書をコピーし、わからない単語を英英辞書で調べて英語でメモをするということです。そうすることで講義に教授が言ったことを逃すことなくメモすることができます。課題でも毎回提出前に英語のミスなどをチュータリング制度を利用し、チェックしてもらってから提出していました。予習などを念入りにしていたおかげで、授業で毎回ついていけないということはありませんでした。また、クラス内でのディスカッションや課題、テストで困ることもなく、自分の納得のいく成績を取ることができました。授業についていけているということが自分の自信にもつながり、クラスの友達の輪が広がりました。途中でオンライン授業になってしまいましたが、予習をしっかりし、オンラインのチュータリング制度を利用し、周りとの差を少なくさせる努力は変わらず実施していました。また、ジョージブラウン大学の「キャラバン」という大きな行事では、日本人としてリーダーを務めました。職員の方と各国それぞれのリーダーの子とミーティングを何度もし、日本のグループをまとめました。日本に興味がある他国の子ども日本グループとして参加していたので英語でメンバーをまとめるのは大変でしたが、当日の日本コーナーと日本の出し物「ソーラン節」は大盛況でした。自分の目標としていた環境で勉強できて、他国の友達も増え、さらに自分の英語やコミュニケーションスキルも高めることができたのでとてもいい経験になりました。

次に生活面についてです。私は8ヶ月間ホームステイをしていました。ホストファミリーの家族構成は、ファザー、マザー、12歳のブラザー、8歳のシスター、そして一匹の大型犬です。私は高校生の時にも一度カナダ留学でホームステイを経験していました。しかし、家族が迎え入れ

てくれていたにも関わらず、自分から壁を作り、なかなか思い描いた通りにいかず、後悔していました。その時の経験を活かし、今回は自分からファミリーに溶け込むチャンスを逃さないことを目標にしていました。そのために、できる限り自分の部屋に行くことを避け、リビングで過ごすようにしていました。休日にも家族と過ごす時間をできるだけ作るようにしました。親戚の方々と集まるパーティーなどにも積極的に参加しました。毎日学校であったこと、家族それぞれのメンバーはどうやって一日を過ごしていたのかを必ず聞くようにしていました。また当たり前ですが、部屋はきれいに保つこと、小さな家事は進んでやること、ファミリーとのルールは守ることを心がけました。もちろん、最初は気まずいと思うことがほとんどでした。最初の頃は、「今日何したの?」という会話を持ちかけるのでさえ、緊張していましたが、日が経つにつれ今日あった出来事の話から展開して会話がどんどん続くようになりました。特に、親戚が集まるサンクスギビングなど今まで会ったことないたくさんの方と出会う機会だったので、より緊張もしました。しかし、自分からファミリーに溶け込もうとすることで、ファミリーや親戚の方々、幼馴染家族も私のことをファミリーの一員として、たくさん可愛がってもらえるようになりました。一緒にハロウィンやクリスマスなどの行事を過ごし、ボーリングやスキーに出かけたり、誕生日パーティーやディナーに招いてくれたりしました。また彼らは、校閲をしてくれたり、わからないことを聞いたり、私の勉強面でもいつでもサポートをしてくれました。時には英語を学ぶ上でストレスになっていることや不安などもファミリーに話しました。するとファミリーは「あなたなら大丈夫よ、あなたが頑張っているのを見ているし、知っているから。」といつも応援してくれました。休日には子供たちと一緒に日本食を作ったり、工作したり、映画を見たりゲームをしたりして過ごしました。新型コロナウイルスの影響で最後の一か月半、家で過ごすことになりましたが、今まで以上にファミリーと過ごす時間が多くなり、絆がより深まりました。異様な事態が発生し、とても不安になり、途中で私はこの家にいられなくなるかもしれないという心の準備さえしていました。しかし、ファミリーや親戚は私のことを一切見捨てず、最後まで私を受け入れ、見守ってくれました。彼らはいつでも私の味方をしてくれていつでも助けてくれました。この状態になったからこそ、普段の生活では気付かないような文化の違いなどにも気づくことができました。親戚含めファミリーに伝えきれないほど感謝しています。日本に帰ってからカナダの友達だけでなく、親戚の方やファミリーと頻りに連絡を取ったりゲームをしたりしています。また、ボランティアにも何回か参加をし、色々な人と関わる時間を作るようにしていたおかげもあり、友達や知り合いにも恵まれていました。週末によく出かけたり、授業の無い時間で遊びに行ったりしていました。新型コロナウイルスの影響でお別れを直接することはなかったですが、電話を一人一人つないでお別れの挨拶をしました。

この留学で私が学んだことは、自分次第で変えられるということです。周りとの差は自分自身の努力で埋めることができること、そして人との信頼関係や絆も自分次第でより良いものにできることです。私一人では目標を達成することも、様々な経験をすることもできなかったと思います。このような事態になって、自分の思い描いていた留學生活とは違うものでしたが、その状況をプラスに考え、毎日英語に触れ、人と関わり、意見を共有できる環境で過ごせたことは自分にとってとても意味のある時間だったと思います。英語のスキルはもちろん、自分自身も大きく成長できたのでこの留学が私にとって、これからの自信につながると思います。

